

DESIGN



DRIVE



INFOTAINMENT



“FUN” IMPREZAの“FUN”をクローズアップ!

6世代目に進化した新型インプレッサ。開発のとりまとめを行った毛塚紹一郎PGM（プロジェクトゼネラルマネージャー）によると、開発のキーワードは“FUN”です。目的地への運転がワクワクして、いつでも楽しい、乗る人すべてを“FUN”な行動へと後押しするクルマを目指したと語っています。今回は、新型インプレッサの“FUN”＝楽しさとは何か。デザイン、走り、操作系の3つに焦点を当て、それぞれの視点からこだわった点や実際に体感してほしいポイントを紹介します。

いつもの運転が愉しくなる、FUNなデザイン

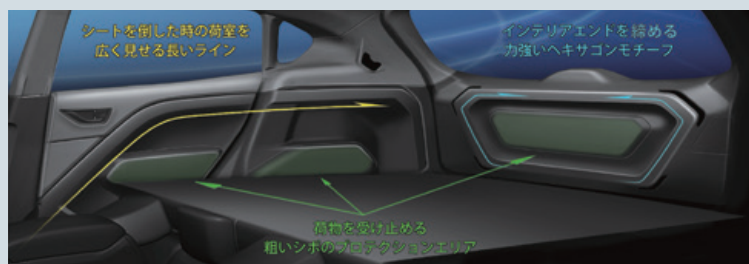
GUEST SPEAKER
株式会社SUBARU
デザイン部主査

井上 恭嗣
(いのうえ きょうじ)



使って実感できる、FUNなカーゴルーム

アクティブに使っていただけるインプレッサは、後席の背もたれを倒して荷室として使うケースも多いクルマです。そのため、新型インプレッサのリヤドアトリムは背もたれを倒したときの荷室としての統一感や広さに配慮して、フロントドアとは異なる専用デザインを採用しました。さらにリヤゲート内側と荷室・リヤドア下部には、積載物を受け止める粗いシボのプロテクションエリアを設けています。これは、背もたれを倒して積載する場面でも実感していただけるFUNなところなんです。



リヤシートバックを倒したときにあらわれる統一感のあるカーゴルームのデザイン。
(下は開発時に描かれたイメージスケッチ)

■「身軽に走りそう!」なイメージを演出するシャープなライン



長く使っていく中で発見できるFUN

先に、なぜか分からないけれど、見ていると出かけたくなるのがインプレッサだご紹介しましたが、実はそのように感じていただくためのデザイン的な仕掛けを大きいところから細部に至るまで施しています。フロントバンパーの造形もそのひとつです。フロントグリル下の面は平面ではなく少し傾斜をつけることで左右方向に一貫する陰影を作り左右方向への拡がりを生み出しています。それを受け止めるのが左右端のフォグランプまわりの造形です。ここにも傾斜面を設け、フォグランプベゼルの方向に貫くような伸びやかなイメージを創出しています。このフォグランプ回りのデザインは側面から見たときには前後方向につながるシャープなラインを強調する効果を上げています。新型インプレッサでは、このようなデザイン的な取り組みを多数行っているため、インプレッサが置かれる背景や当たる光の種類や角度の違いによって、見え方が変わります。長く使っていく中で、「こんなふうにも見えるんだ」という新しい発見をしていただけるのも、インプレッサのデザインに隠されたFUNのひとつかもしれません。



フロントフードに設けた立体的な峯や、ボディサイドのL字型の凹凸は、光の当たり方や置かれた場所によってさまざまな表情を見せる。



フォグランプ上部にも傾斜面を設け、左右方向の流れがフォグランプベゼルに突き抜けていくようなイメージを創出している。



■前後方向、左右方向に流れるイメージを強調

グリル下部の面は垂直面ではなく角度を付けた傾斜面を採用。左右方向への拡がりを強調しています。

サイドシルも立体的に仕上げ、前後方向の伸びやかな印象を強調しています。



「何かが出来そう」な、インプレッサのFUN

FUNなデザインのクルマというと、まず思い浮かぶのはスポーツドライビングに特化したスポーツカーやオープンエアに特化したオープンカーなど、あることに特化したデザインのクルマです。それらと比較するとベーシックで実用的なインプレッサは、ひと目で分かるFUNなカタチを持っているわけではありません。けれど、歴代のインプレッサを振り返ってみると日常使いだけでなく、長距離ツーリングに出かけたりスポーティなドライブを愉しんだりしたくなるような「日常+α・何かが出来そうな魅力」が備わっています。なぜか分からないけれど、インプレッサを見ていると運転してみたいくなる。出かけたくなる。それが他車にはないインプレッサ特有のFUNだと思います。

安心+アクティブ=FUN!

滑らかな線を用いて豪華さや先進性を追求した他車のデザインと比較すると、インプレッサのデザインは「がっちり・かっちり」した印象で、頼もしさを感じさせます。このような角ばったカタチで重厚感を持たせる「安心して出かけられるデザイン」は、インプレッサのFUNの土台として今回も継承しました。さらに、アクティブなライフスタイルを愉しむお客様に向けて「前後・左右に伸びやかなデザイン」「スピード感のある線やカタチ」「絞り込んだキャビン」「タイヤとフェンダーの幅広感」などで「アクティブな気持ちを盛り上げる、より走りそうなデザイン」を目指しました。「安心して出かけられる頼もしさ+アクティブな気持ちが盛り上がる」=「更にFUNなデザイン」と感じていただけると嬉しいです。



サイドミラーに写りこみ張り出したリヤフェンダーが「インプレッサを運転している」ことを実感させてくれる。

■安心感のある「がっちり・かっちり」した印象を生み出すデザイン



日常領域でも愉しめる、FUNな走り

GUEST SPEAKER
株式会社SUBARU
ボディ設計部
機構設計第一課

井上 貴文
(いのうえ たかふみ)



GUEST SPEAKER
株式会社SUBARU
ボディ設計部
機構設計第一課

塚本 賢治
(つかもと けんじ)



ドライバー・同乗者それぞれにとってのFUN

ドライバー

狙いどおりにクルマを操れるFUN

新型インプレッサは、切出しの瞬間から手応えを感じられ、クルマがすぐに反応するので、狙いどおりにクルマを動かすことができます。高速道路での走行中に横風に煽られた時、新型インプレッサはちょっとした修正舵を加えるだけで、正確に軌道を修正できるので安心してまっすぐ走れます。日常領域でも、例えば交差点の右左折や車線変更の際でも良さを体感できるはず。

同乗者

緊張せず、安心して乗れるFUN

ドライバーにとってクルマのコントロール性がよくなった事は、急な動きが減り、同乗者に不安や緊張を感じさせないことにも繋がります。また、ボディ剛性の向上によってサスペンションがよく動くようになり、全体的に質感を高めることができました。路面の凹凸による突き上げや、頭部がゆすられたりする忙しい感じがなくなり、長距離でも疲れな、柔らかい乗心地に仕上がっています。



FUNなライフスタイルへと誘うクルマ

新型インプレッサのコンセプトに「行動的なライフスタイルへと誘う」というフレーズがあります。これはどういうことかという、通勤など日々の移動の足としてしかクルマを使っていなかった人が、インプレッサの走りに触れた結果、「このクルマに乗って休日どこかに出かけてみたい」と思い、行動的になる。つまり、クルマがきっかけとなりライフスタイルがアクティブに変わる、ということです。毛塚PGMの言葉にもあるように、「いつまでも、どこまでも運転したくなる」願望を目覚めさせるクルマだと思っています。

FUNの根底にある、細かいこだわりの積み重ね

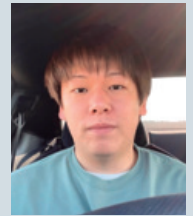
ドライバーにとって必要な、ハンドルから伝わる路面状況のインフォメーションをしっかりと残しつつも、全体的に振動や騒音を減らすことに注力しました。ステアリング機構や制御を新しくだけでなく、ドライバーが直に触れるハンドルからタイヤまで繋がっている部品たちの改良を積み上げ、このような乗り味に仕上げました。例を挙げると、5つのホイールナットを中心点を結んで出来る円の直径「PCD」を100mmからレヴォーグ、レガシィアウトバック、WRX S4などの車種と同じ114.3mmに拡大し、ホイールと車体をつなぐ「ハブベアリング」と「ナックル」がはめ合わさる部分の精度を向上させることで、路面からの入力に対する剛性を高めています。他にもリヤサスペンションのサブフレームブッシュ取付を製造工程から見直し、走行中のサブフレームの動きをコントロールする事で、路面から車体への入力を低減しました。結果、道の悪いところを低速で曲がる際など、左右の不安定な挙動がなくなりました。



運転のFUNをサポートする操作系

GUEST SPEAKER
株式会社SUBARU
E&Cシステム開発部
E&C性能開発第二課

川谷 健太
(かわたに-けんた)



数字で見る 操作系のFUNなポイント



スマホと連携

Apple CarPlay、Android Auto™
2つのアプリでクルマとつながる

クルマに乗っていてもスマートフォンのアプリ機能が使えるApple CarPlayとAndroid Auto。Apple CarPlayでは、ワイヤレスでの接続が可能となり、後部座席の人のスマートフォンともスムーズに連携できるようになりました。

※「Apple CarPlay」はApple Inc.の商標です。「Android」「Android Auto」はGoogle LLCの商標または登録商標です。



ナビゲーション機能

3つのワードで目的地にたどりつく!?

目的地設定の新しい方式としてwhat3words(ワットスリーワーズ)を採用しました。この機能は、全世界を3m四方のマスキュに区切り、3つの単語を割り当てることで正確な位置を特定できるサービスです。例えば、「///せんもん。せけん。いっしき」と入力するだけで、SUBARUの恵比寿本社入口まで案内してくれる画期的な機能です。



デジタルマルチビューモニター

4つのカメラでクルマの周囲がまるわかり!

狭い道での走行時や駐車時があると重宝するのが、クルマの周囲が見えるモニターです。新型インプレッサでは、フロントグリル、ドアミラー、リヤゲートに備えた4つのカメラで捉えた映像を中央のディスプレイに表示。自車を真上から見たようなトップビューや自車の側面の様子を映したサイドビューなど、運転席からは直接見えにくい車両の周囲をリアルタイムで確認できます。



SUBARU STARLINK

24時間365日 コールセンターとつながるコネクティッドサービス

万一、事故が起きてしまった場合、24時間365日コールセンターとつながるサービス。クルマをWi-Fiスポットとしてインターネット共有できる「SUBARUクルマ de ネット」や離れた場所でもクルマの所在地がわかる機能など、便利な機能を採用しました。



充電ポート

最大4つの電源を備えた充電ポート

スマートフォンなどの充電に便利なUSB出力電源(Type-A、Type-C)をそれぞれ用意。ポート部は光るので夜間や暗い場所でも役立ちます。ST-G、ST-Hグレードでは、後席にもUSB電源を装備し、家族や友人など大人数で乗るシーンでも大活躍!



機能性と気持ちよさを追求したスイッチ

アイドリングストップのオンオフなど車両の設定を変えたい場合、中央にあるモニターをタッチすることで変更することができます。オーディオのボリュームやエアコンの温度調節など、使用頻度が高い機能については、モニターの両脇についている物理ボタンを使って操作することも可能です。また、ユーザーインターフェイスの最適化によりボタンの大きさにもこだわり、押しやすい大きさにしています。さらに、スイッチでいうとステアリング周辺部の操作系も従来よりストローク量を減らし、押し込み感が伝わるものになりました。その結果、カチッと押している気持ちのよい操作感を実現しています。

ドライバーのFUNを支えるインターフェース

ドライバーが運転操作に集中できるように少ない視線移動でも、必要な情報がわかりやすく伝わるインターフェースにしています。例えば計器類は従来どおり、左側にタコメーター、右側にスピードメーターを配置し、視認性に優れたメーターに。メーターの中央部には、4.2インチの液晶モニターを配置し、アイサイトの設定や、e-BOXER搭載モデルでは、制御の様子がわかるエネルギーフローの表示などの情報も視線の移動量を最小限に抑えた状態で確認することができます。また、新型インプレッサでは今回のモデルから採用された11.6インチの大型ディスプレイは、視認性にも優れ、タッチパネルで操作できるので、タブレットを使う感覚で直感的に操作できます。さらにお手持ちのスマートフォンと繋げることで、アプリのマップ機能を車内で使えて、スマートフォンに入っているお気に入りの音楽を流せるなど、運転の楽しさの幅が広がりました。